
『愛詩』

零那

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『愛詩』

【作者名】

零那

【あらすじ】

僕にとっての君

僕にとっての愛

我が子への想い

『宝物』

ありふれた言葉だけど
大事な大事な宝物だよ
君が居てくれなきゃ
僕は成り立たないよ
君が生きてなきゃ
僕は生きれないよ
君が泣いて僕も泣いて
君が笑って僕も笑って
君が悩んで僕も悩んで
君が怒って僕も怒って
そうしてずっとずっと
一緒に喜怒哀楽を共に
分かち合っていていたら
そうしてずっとずっと
一緒に生きれたならと
強く優しく君を想うよ
いつか離れていく君を
止める事はできないよ
その日が来ると
僕は君を手放す
その日が来るまでは
どうか僕の傍に居て
君が居てくれなきゃ

僕は成り立たないよ

『笑』

笑い声ひとつでも
色んな形があるね
大声でゲラゲラも
気持ち良いよね
声にならないほど
苦しそうだったり
意地悪な事をして
ニヤッと喜んでたり
出来た瞬間の
キラキラした瞳で
満面の笑顔も
楽しくて夢中に
なってる笑顔も
色んな形の笑顔と
色んな形の笑い声
絶えぬ事を願うよ

『愛』

辛いときや

苦しいとき

へこんでて

泣いたとき

イライラして

泣いてるとき

ストレスや

悔しさや

情けなさで

自分を

見失ったとき

どうしようもなく

馬鹿な自分が

憎くなるとき

いつでも君が居る

それが嫌なんだと

思ったこともある

それでも君は居た

必ず僕の傍に

君は僕に言う

「愛してるよ」

「大丈夫だよ」

「僕が居るよ」

「泣き止んで」

何よりも大事な

君に愛されてる

僕も僕らしい愛を

君に精一杯贈るよ

君からの愛と

僕からの愛は

重なり合う？

『御褒美』

いつも怒ってばかり
そんな僕に君はいつか
愛想尽かして出て行く
そんなの嫌だ
耐えきれない
君の悪いところや
直して欲しいところ
たくさんあるんだ
でもやっぱり君が
僕を嫌いになるの
怖いからやめるよ
そう思っても
それでもやっぱり
君の為に叱るんだ
ちゃんと分別のつく
「普通」の人に
なってもらいたくて
僕は嫌われても良い
君が嫌われる存在に
ならない様に叱るよ
今は無理でも
いつかは君に
解る日が来る

そう信じるしかない

僕は辛い役割だね

いつか解ってね

そして解る日が来たら

僕を抱き締めて欲しい

それがきつと

最高の御褒美

『一緒に』

君の良いところや
君の好きなところ
自分の意志が
言えるところ
チャントこだわりを
持ってるところ
顔が凄く可愛い
ってのも得だね
どんなに泣いて
嫌がったとしても
最後はチャントするところ
意地になって
頑張るところ
涙目で我慢してる顔
一生懸命なところ
悪いところも
いっぱいだけど
良いところも
好きなところも
まだまだいっぱい
君の良いところ
僕が伸ばさないとね
僕も頑張るからね

一緒に頑張ろうね
可愛い可愛い君を
守りたいと想うよ

『繋がり』

ある人が
教えてくれた
君は魂で僕を
選んでくれた
それが本当なら
僕は君に感謝だ
一体誰の
生まれ変わり？
誰にも解らない
君と僕はずっと
切っても切れない
そんな繋がり
僕が求めた愛を
君はくれるかな？
君の求める愛を
僕は与えられるかな？
手探りで築き上げよう
確かな愛の繋がりを．．．

『1日』

朝起きて夜寝る迄
色んな事があるね
何気ない1日で終わる日や
新しい発見や成長したり
そんな幸せな日もあるね
君の成長の瞬間
何とも言えない
満ち足りた温かな
気持ちになるんだ
僕が凄く喜ぶと
君は照れ笑いするよ
たまに照れ隠しで
変に怒ったりして
それが僕にとっては
更に可愛くて
愛しくてたまらないよ
1日1日が大切な日
君と僕の思い出が
積み重なってくよ
君の1日を君の成長を
毎日毎日書き留めたノート
君が大きくなって
見てくれる日は

来たりするのかな？
すぐ照れるから
怒られるかな？
いつまで
書き留められるかな
君の生活や君の成長
君の1日を・・・
食べた物や時間
寝起きの時間
トイレの事まで
1日の流れを時間に
沿って全て形にしてるよ
君が産まれた日から
今日此の日迄ずっと
いつまで記録
し続けられるかな？
前のノートを見る度
君の成長を改めて
実感するんだ
そんな当たり前の事
それが僕の幸せだよ
まだまだずっとずっと
君が君らしく
居られますようにと願う

『親の資格』

君が怪我をすると
僕も心が痛いんだ
そんな情けない僕
好きだからこそ
大事だからこそ
大事にしたい
そんな僕のエゴ
解ってくれるかな？
それじゃ駄目だから
僕も耐えるよ
自身で感じる痛みで
君が成長してくれる
そう信じるよ
手助け無しで見守る事
それがどれだけ辛いか
親と言うのは
木の上に立ち
見守る事
それくらい
離れたところで
視野を広げ見守る
それが大事だと
字の通りだと

教えられた・・・

僕はまだまだ

親の資格は無い

君を不幸にしない為に

僕も早く親になれる様

努力し続けます

『アナタと同じ位』

アナタが見るもの

アナタが想うもの

アナタが感じる事

アナタが考える事

アナタの見てるもの

アナタの触れるもの

アナタと共に

アナタと見て

アナタと感じて

アナタと考えて

アナタと心を・・・

アナタと共に・・・

アナタと同じ位

共に笑って

アナタと同じ位

共に泣いて

アナタと同じ位

共に感じて

アナタと同じ位

心の成長をしたい

アナタを理解できる
そんな親で在りたい
アナタを理解できる
そんな人間で在りたい

アナタと同じ位
綺麗に澄んだ心は
もう無いけれど

アナタがママを
『だいすきっ』
って言ってくれる

その想いは
ママがアナタを
『だいすきっ』
って想う気持ちと

同じだから
だから想う心は
アナタと同じ位
ずっとずっと

・・・なんて
無理だけどね
いつか離れる

その日迄
何が在ろうと

ア
ナ
タ
は
マ
マ
の
宝
物

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~10937

『愛詩』

2015年02月18日 16時20分発行